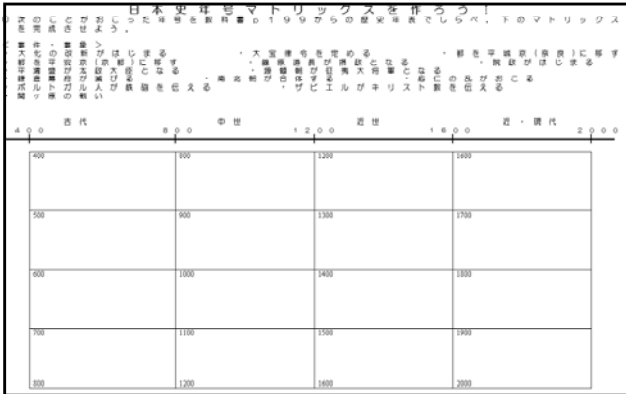


こんな授業をしています(日本史A)

三好高校では2年生の選択科目の一つに日本史Aがあります。選択した生徒は、毎週2時間連続で授業を受けています。授業の内容は次の通りです。

①これまでの流れを確認し、理解する



生徒は小学校・中学校で日本史を習っているものの、基本的な事項でも忘れている子がほとんどです。そこで、年表を自分で作成したりするなどして、時代の流れを確認し、理解しています。

←授業で使った年表プリント

②できごとを整理する

それぞれの時代におこったできごとについて理解していきます。複製資料や音楽資料などできるだけ使い、当時の様子がイメージできるようにしています。

赤紙(召集令状)の複製→



③できごとから読みとれることを考えたり、まとめたりする

学んだできごとの理由や資料から読みとれることを考えたり、学んだことを簡単な文にまとめたりします。

Q中国が共産国になったことで、アメリカの日本占領方針はどう変わったか？

授業プリントの一部↑


④その他

2時間連続で授業が行われているので、放送時間の長い歴史ドラマを視聴することもあります。また、特設的な授業として、日本の伝統的な遊びとおせち料理の由来についての授業を行ったりしています。

〇羽根つき
中国で羽根に建機をつけたものをける遊びがあり、これが(1空町時代)に由来しました。当時の高知の様子を記録した本には、羽根つきで遊んだ姿が写っています。やがて羽根つきで遊べるようになったと信じられるようになり、江戸時代には、年末になると(2邪気をはらう)ための羽根つきをするようになります。

さらに、羽根に建機をつけたものを「無患子」と書き、子どもがわすれないという(3歳よけ)に通じるものとして、女の子の初月に羽根つきをする風習が生まれます。室町時代の本には、羽根のとほ様子がトンボに似ていることから、子どもの病気の原因となる蚊に刺されないよう、蚊の天敵である(4トンボ)に由来して、正月に羽根つきをするようになったとされています。

こうして、羽根つきは(51年の厄をはね子どもの健やかな成長を願う)ものとして、親しまれてきたのです。打ち損じると膝に傷をぬるのも嫌みかけの羽根つきは、



←伝統的な遊びについて学ぶ授業プリント

こままわしを体験→

